

発 刊 の 辞

日本図書館研究会・整理技術研究グループが発足したのは、1957年 9月 2日のことです。同研究会（以下「日図研」と略）の理事会で承認を得たのがこの日です。承認申請書には、森耕一、藤田善一両氏が署名しました。これは日図研の機関誌『図書館界』 9巻2号（1957.11;58）の記事で知ることができます。

1946年に青年図書館員聯盟を継承した日本図書館研究会は、6本の柱を建て活動を進めました。その中に研究グループの形成・活動に対する奨励、及び研究大会でのグループ発表の項目があります。

整理技術研究グループは、主題別研究グループの最初である目録排列法研究グループ（1955年10月）の実質的後身であり、日図研としては、現在最古の研究グループと言えます。角川書店1982年刊行の『図書館用語辞典』（図書館問題研究会編）は「整理技術研究グループが特に活発な活動で実績を挙げている」と評価しています。

当研究グループ（以下「整研グループ」）の足跡の一端をなぞってみましょう。

- ・ 毎年の研究大会でグループ研究発表
- ・ 「図書館目録規則案」を策定（『図書館界』26(4):1974.12;109-117）
- ・ 『図書館界』150号記念(1976.9)「目録法の進歩」を執筆及び文献総説
- ・ 『日本目録規則新版予備版』（1977年）の予備会議への提言者の派遣
- ・ 印刷カード事業の考察及び文献総説（『図書館界』30(6):1979.3;207-245）
- ・ 『日本目録規則新1987年版』への提言（同書p.vi参照）
- ・ 「整理技術情報管理等研究集会」（TP&Dフォーラム）の開催（1991年～）

このうち、TP&Dフォーラムは「TP&Dフォーラム・シリーズ」（ISSN 0918-404X）を継続刊行する機運を得て一つの表現フィールドとなりました。ただ、整研グループ独自の機関誌ではなく、しかも研究記録誌であるから、日常の研究活動を記す機能を内包していません。

そこで、月例研究会での発表、会勢等を記し、成員間または研究グループ間のコミュニケーションをはかるため、この機関誌を持つ運びとしました。役員会で意志決定したのは2年以上の前でした。そして、発表原稿を早くからお預かりしました。しかし、諸般の事情から発行が伸び伸びとなり、迷惑をおかけしました。殊に古川肇、吉田暁史両氏にお詫びしなければなりません。

さて、こうした機関誌を持てたことに、大変な喜びを感じます。整研グループの現役（グループ研究発表を継続中ということ）の年長者として発刊の辞を書くようおおせつかった私です。従って遡って本グループの機関誌活動を明かしておく必要を感じます。だが念のため申し添えますと、私は1970年からの活動であり、古いことは資料でしかお伝えできません。

かつて、1960年～1963年にかけて、整研グループは『整理技術研究』という刊行物を第1号から第3号まで出しているようです（なお現行、岩淵泰郎氏主宰の同名の雑誌とは全く別）。坂田摩耶子氏のB S H論文（1号）、森耕一のI F L A : ICCP : Working paperの翻訳（2号）、竹中靖雄氏による同 paper の継続訳（第3号）があったと伝えられています。しかしグループの継承資料にさえ残っておらず、私より少し上の年代でも見たことがないと言われます。私も所有していません。このように紛れてしまうということは、小さな刊行物にありがちのことですが、真に残念です。本誌はI S S Nを採り、国立国会図書館と日本図書館協会にぜひとも寄贈し、グループでも確かに保存するよう世話人各位に望んでおきます。なお、極力、カストリ雑誌（3合(号)でつづれる）にならぬよう祈ります。

本誌の誕生に関しては、丁度この期のグループ世話人である野口恒雄氏の腕力によるところが大きいようです。こうした新しいものを産み出すには微妙な調整能力が必要ですが、氏はよくその任を果たしました。また、氏を助けた三浦整氏の尽力にも敬意を表します。

整研グループの35周年記念にあたる年度にこうした刊行ができたことを、整研グループ成員の全員の方々とともに慶び、初代の代表人である、藤田善一氏（1991年9月25日没）、森耕一氏（1992年11月5日没）の霊前にお供えしたいと思います。

1993年 1月23日

志 保 田 務（桃山学院大学文学部）